美空富士引退

勝ちに拘った満身創痍の土俵人生

紙相撲新聞
第156回本場所
号外
編集・発行
日本紙相撲協会

幕内最高優勝８回、幕内通算１７４勝、横綱在位１５場所、病魔に泣いた悲運の横綱

横綱美空富士は先場所「負けがこんだら進退を考える」と師匠の桐壺親方が重大な決意で臨んだが、７番勝って「これはまだ行ける」と今場所を迎えた。

初日は鹿富士に左を差されて何もできずに寄り切られたが、二日目は魁電に対して左からの攻めで寄り切って１勝１敗とした。

「魁電戦に敗れたら引退表明させよう！」と桐壺親方は考えていたらしい。ところが、勝ってしまったため、そのタイミングを逸してしまった。

そのような心中の中、三日目に月山に寄り切りで敗れるや、取組後に引退を表明した。

美空富士は、１２４回に序の口で初土俵を踏み、１２８回に幕下昇進、１３０回に新十両に昇進し８勝３敗で十両優勝、１３３回に新入幕を果たすと前頭十三枚目で全勝優勝し三賞を独占。

翌場所には早くも小結に昇進。次の場所には関脇に昇進し、関脇２場所目の１３６回場所には１０勝１敗で２回目の優勝を飾り、１３７回に大関に昇進。

１４１回に４回目の優勝を２度目の全勝で飾り、１４２回に第２４代横綱に昇進し、二代目虎の富士を襲名するも、この場所、５勝４敗２休と初土俵以来、初めて勝ち越しを逸した。

翌１４３回場所に四股名を戻して５回目、１４６回に６回目、１４８回に７回目（３度目の全勝優勝）１４９回に初の連覇で８回目の優勝を飾った。

第１４８回本場所千秋楽、３度目の全勝優勝を賭けての横綱対決を制して見事７回目の優勝。翌１４９回には８回目の優勝を飾った。

幕内成績１７４勝６６敗１６休、通算成績２０５勝７８敗１６休、幕内優勝８回（歴代５位、うち全勝優勝３回（歴代２位タイ））、殊勲賞２回、敢闘賞１回、技能賞３回、十両優勝１回。

昭和の時代にはあったものの、平成以降、負け越し知らずで横綱昇進を果たしたのは美空富士ただ一人。勝負強く、本人は照の花の９回優勝と肩を並べたかったとのことだが、幕内優勝８回は見事だった。

しかも、その内の全勝優勝３回は平成の大横綱と言われた英ですらできなかった回数。全盛期の相撲では、相手に相撲を取らせない速攻相撲で、見ている親方衆も思わず「強い！」と口に出るほどだった。

晩年は糖尿病を患って痩せ細り、それでも勝つことへの執念を燃やして稽古に励み変幻自在のまるで忍者のような相撲で勝ち越しを続けたが、桐壺親方も今の身体で横綱を張らせるのは忍びないとの思いから今回の電撃引退に至ったようだ。

↓第１５３回場所初日の土俵入り。満身創痍ながら堂々の雄姿だ。